



れんげそう

令和8年6月30日
福生第五小学校
学校通信第588号

あたりまえだけど、とても大切なこと

副校長 浅井 博行

1学期も残すところ、2週間あまりとなりました。7月は「1学期のまとめ」の月です。1学期にできるようになったことや今後改善していくことを振り返り、2学期を気持ちよくスタートできるよう繋げていきたいと思います。

子どもたちは日々の学校生活の中で多くのことを学び、成長しています。その中で、学力の向上と同じくらい大切にしたいのが「社会性」を育てることです。

「社会性」とは、他者と関わりながらよりよく生きる力であり、将来にわたり子どもたちの土台となる力です。そして、その基盤となるのが「あたりまえだけどとても大切なこと」をしっかりと身に付けていくことだと考えます。

例えば、

①「人の意見や考えを尊重する」

自分とは違う意見に出会ったときに、それを否定するのではなく、「そういう考えもあるのだな」と受け止めることで、豊かな人間関係を築くことができます。学級の中で仲間の発言に耳を傾ける姿は、まさに社会性の第一歩です。

②「誰かが素晴らしいことをしたら拍手をしている」

仲間のよい行いを見付け、素直に認められる行動は、思いやりにあふれています。拍手や「すごいね」という一言は、その場の雰囲気をも温かくし、認め合う関係を育てます。自分だけでなく周りのよさにも目を向けることが、よりよい集団をつくる力となります。

③「誰であれ、悪口を言わない」

何気ない言葉でも、相手の心を傷付けることがあります。言葉は、時に大きな暴力にもなりかねません。見えないところでの言葉遣いも含め、相手の気持ちを考えた言動ができることは、とても大切なことです。

④「誰かとぶつかったら、自分から謝る」

何かあったときに素直に謝ることは、決して簡単なことではないかもしれませんが、その一言が関係を修復し、よりよい信頼関係を築くきっかけになります。自分から「ごめんなさい」が言えることは、勇気ある行動と考えます。

⑤「自分のすべきことを他人に任せていない」

自分の役割を理解し、それを最後までやりきることで、自立に向けて大きく成長していきます。時には大変だと感じることもあるでしょうが、自分で取り組む経験を重ねることで、困難に立ち向かう力が育まれていきます。

この他にもまだまだありますが、これらはどれも特別なことではありません。しかし、その「あたりまえなこと」を丁寧に積み重ねることで、子どもたちは周りの人とよりよく関わる力を身に付けていきます。学校でも、日々の生活の中でこれらの姿を大切に育てていきたいと考えています。

子どもたち一人一人が安心して自分らしく過ごし、互いに認め合える関係の中で成長していくために、これからも御家庭と連携しながら取り組んでまいります。引き続き、御理解と御協力をお願いします。